

令和元年度予算決算常任委員会第2回文教民生分科会会議録

日 時 令和元年6月7日（金曜日）

場 所 宍粟市役所503会議室

開 会 6月7日 午後1時10分

次 第

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 審査・調査事項

◆第86回宍粟市議会定例会付託案件審査

・第59号議案 令和元年度宍粟市一般会計補正予算（第1号）の関係部分

◆第86回宍粟市議会定例会付託案件に関する意見及び賛否確認

4. 閉会

出席委員

委員長	田中一郎	副委員長	大久保陽一
委員	津田晃伸	委員	榎橋美恵子
〃	田中孝幸	〃	神吉正男
〃	山下由美	〃	飯田吉則

出席説明員

（健康福祉部）

健康福祉部長	世良智	健康福祉部次長	大谷奈雅子
健康福祉部次長兼社会福祉課長	橋本徹	健康福祉部次長兼障害福祉課長	三木義彦
介護福祉課長	小椋憲樹	保健福祉課長	平尾真弓
一宮保健福祉課長	前田徳之	波賀保健福祉課長	藤井康明
波賀診療所事務長	牛谷宗明	千種診療所事務長	樽本美稚子
保健福祉課係長	岸根翠		

（教育部）

教育部長 前田 正人
教育部次長 田路 正幸
教育部次長兼子ども未来課長 中尾 善弘
学校教育課長 世良 繁信
山崎給食センター所長 池本 雅彦

教育部次長 山本 信介
教育部次長兼施設整備課長 西林 文隆
教育総務課長 進藤 美穂
社会教育文化財課長兼歴史資料館長 柴原 宏二
学校教育課副課長 中田 吏

事務局

係 長 小 椋 沙 織

(午後 1時10分 開会)

○田中一郎委員長 それでは、健康福祉部のほうの常任委員会始めます。

このたび議会構成選挙で8名の委員が決定しましたので、この8名で審査、調査並びに運営をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

それではまず、次第どおりに予算決算常任委員会の文教民生の分科会を始めたいと思っております。

それでは、審査・調査事項としまして、59号議案について。

訂正します。先ほど59言いましたけど、57号議案です。について当局及び説明お願いたします。

その前に、部長、お願いたします。

どうぞ、世良部長。

○世良健康福祉部長 そしたらまた、新しい委員の皆様、お世話になりますけども、またどうぞよろしくお願いたします。

初めての課長もおりますので、少し最初に自己紹介をさせていただきたいと思っております。

健康福祉部の世良です。よろしくお願いたします。

○世良健康福祉部長 今日は千種の保健福祉課の村上課長のほうが出張で今日こちらに参っておりませんが、健康福祉部本庁4課、市民局の保健福祉課3課、それから二つの診療所、この体制で、職員は全職員で約140名となっております。大所帯で体制を組んでおります。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、57号議案のほうから説明。

○田中一郎委員長 ちょっと、失礼します。やはり59号議案から、予算決算の分科会からですので、せつかく委員から先ほど57ですという貴重な意見いただいたんですけど、59号議案の分科会の補正予算の関係分から審査したいと思っております。59号議案からいきたいと思っておりますので、よろしいですか。

それでは、当局のほう、説明お願いたします。

○世良健康福祉部長 それでは、本日お配りをしております資料に基づきまして、59号議案の一般会計補正予算第1号についての関係する部分の説明をさせていただきます。

お配りしております資料の5ページをお願いたします。

まず、社会福祉課関連でございますが、民生費、児童福祉費におきまして、子ども及び老人の遊び場設置促進事業補助金30万円の補正をいたしております。こちら

は、当初予算の編成後に同事業の補助金によって自治会内の公園整備をしたい旨の要望がありまして、補正予算の編成時に間に合いませんでした。その後でしたので、今回の補正をさせていただいております。この事業は、子ども及び老人の遊び場としまして、150平米以上かつ5万円以上の整備事業につきまして、上限を30万円としまして事業費の2分の1を助成するという、そういう助成事業となっております。

次に、介護福祉課の補正となっておりますが、こちらは防災と福祉の連携促進モデル事業交付金としまして、県のほうから30万円の交付を受けるものでございます。歳入分でございます。県防災と福祉の連携モデル事業の実施に係る交付金ということで、歳出のほうにその30万円の内訳をお示しをしておりますが、歳出のところの補正理由のところをごらんいただきたいと思っております。この事業は災害時における要援護者の支援に備えまして、自主防災組織等による個別支援計画の作成を推進するために、福祉専門職と連携し、県が推進する防災と福祉の連携モデル事業、これを実施するものでございます。歳入分につきましては、歳出補正に伴う財源10分の10、1市当たり30万円を歳入で補正をしております。歳出につきましては、そちらにお示ししております講師等の謝礼、また個別支援計画の作成協力謝金、文具消耗器材、これらを30万円を歳出として補正をさせていただいております。

次に、6ページをお願いいたします。

一宮保健福祉課関連でございます。こちらは西兵庫信用金庫より3,000万円の教育指定寄附を受けております。このうちの200万円を一宮保健福祉課分として補正をしたものでございます。歳入、指定寄附金としまして、西兵庫信用金庫より一宮市民協働センター（仮称）、こちらの遊戯室の子育て支援センターに木育推進用の木製玩具整備を目的として、子育て支援に係る指定寄附を受けるものでございます。歳出としましては、事業用の備品購入費として、当初130万円の予算に対しまして200万円の追加補正を行いまして、330万円とするものでございます。

以上、健康福祉部関連の補正予算の説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

○田中一郎委員長 ありがとうございます。

続きまして、論点整理が宍志の会から出ておりますので、宍志の会、お願いします。

津田委員。

○津田委員 2点出させてもらってたんですけど、まず1点目の、この子ども及び老人の遊び場の設置事業の補助金の件なんですけど、先ほど説明は受けたんで、編成

後にあったということだったんで、当初もともこの補正、ゼロ円で計上されていたと。当初は上がってこないだろうと見られてたということなんですかね。

○田中一郎委員長 橋本次長。

○橋本健康福祉部次長兼社会福祉課長 先ほど部長から説明がありましたように、当初予算編成時には自治会からの要望及び見込み等のお声は寄せていただいております、当初予算としてはゼロ円計上とし、財政協議においても地元自治会から要望があったときには補正予算にて対応するというので、当初はゼロ円とさせていただいております。

以上です。

○田中一郎委員長 津田委員。

○津田委員 これね、一番もともと僕は予算のときにも話させてもらったんですけど、予算組む中で、本当に必要なものなのかどうなのかという、初めゼロ円で計上して、後で補正、補正というのが、これ、最低の予算なのかどうなのかという、非常にやっぱり疑問に思ってしまうところなんですよ。やっぱり使ってもらいたい補助だったら、やっぱりそれぐらいぜひ、そういうふうな見方でぜひ今後進めてもらえたらなと思います。

以上です。

○田中一郎委員長 津田委員。

○津田委員 事業説明のほうは、これ資料見させてもらいましたんで、大丈夫です。

○田中一郎委員長 神吉委員。

○神吉委員 お尋ねします。補正額30万円の自治会内の公園の整備、30万円でできる整備とはどういう整備なんでしょうか。これが上限の補助なんですね。2分の1ですか。ということは60万円。100万の。理解しました。補助の額が30万円、この整備の内容はどんなものですか。

○田中一郎委員長 橋本次長。

○橋本健康福祉部次長兼社会福祉課長 補正要求は30万円とさせていただいております。これは限度額いっぱいの補正予算計上をしております。実施の自治会からは公園内のフェンスの設置、またあずまやの設置を行い、今ある公園が子どもと老人の遊び場としてより有意義に使いたいということで事業の内容を聞いております。自治会では今現在100万円の工事費用、事業費用として社会福祉課に事業計画の計画が出ており、その中で補助基準に補助内容が合致しておりますので、それに基づいて補助金額を計算し、補正予算の計上をしております。

以上です。

○田中一郎委員長　ほか、補正予算についてありますか。

飯田委員。

○飯田委員　済みません、余計なことですが、この促進事業の補助金はどれぐらいの枠で持たれておったんですか。ちょっと予算で、よう覚えておらんのやけども。

○田中一郎委員長　橋本次長。

○橋本健康福祉部次長兼社会福祉課長　先ほど津田議員からの御質問もありました。当初予算ではゼロ円でありました。今回補正予算で1件、1自治会分の補助を行う予定として、30万円予算措置をさせていただいております。現時点では他の自治会からこの事業を利用した公園整備の予定とは聞いております。現年度、現時点では1自治会を予定しております。今後、その自治会からの要望をお聞きし、その内容が合致すると判断させていただいた時点で補正予算を速やかに予定し、また議会にお諮りしたいと思っております。

以上です。

○田中一郎委員長　飯田委員。

○飯田委員　各自治会、いろんな意味で予定される場所もあろうかと思うんですけども、次々に補助金補正という形というものは、先ほど津田委員からありましたように、やはりいかなものかなという部分があろうかと思うんで、やはり当初からこういうものをある程度募集するというんですか、こういう補助があるんですよということを出していくということも必要かなと。大体この補助金があること自体が皆さんが周知されとんかなということもあるので、わかっている人だけが応募するとかいうような状況ではもうひとつよくないかなと思いますし、かといって、どんだんお金があるというわけでもないんで、やはりその辺基準とかを設けていって、順次整備していくという形が一番望ましいと思うんで、その辺のところ、要望があれば補正していくという姿勢がいかなものかなというふうに思うんで、もうちょっとその辺考えてもらいたいと思いますが、いかがでしょう。

○田中一郎委員長　橋本次長。

○橋本健康福祉部次長兼社会福祉課長　各自治会長様には地域づくり事業の補助金一覧ということで市で、取り組んでおります地域づくりであったり、市全般にわたる補助金の概略冊子をお渡しし、事業説明はさせていただいておりますが、その自治会自治会にも事業計画であったり、予定する場所であったり、自治会内の要望もありますので、その自治会内で積極的に本事業を活用し、自治会の振興に取り組んで

いただけるように、機会を見て、また本庁部門、また市民局のほうも協力させていただいて、事業の周知は今後もさせていただきたいと思っております。

○田中一郎委員長 津田委員。

○津田委員 先ほども言った話なんですけど、これは例えば、まだこれで追加で出てきたら、まだずっと補正上げていくという考え方なんですか。

○田中一郎委員長 橋本次長。

○橋本健康福祉部次長兼社会福祉課長 補正予算はその時々の方計上の予定になるんですけども、事業内容等をお聞きした中で、補正する緊急性があるという場合には補正をさせていただきたいと今、事務局では考えております。

以上です。

○田中一郎委員長 津田委員。

○津田委員 先ほど飯田委員からも出ましたが、やっぱり初めの当初の予算編成でもう少しその辺しっかり見ていただきたいなという部分がありますので、今後の予算編成のときに、ある程度補助事業の枠という部分を見て、本当に必要な補助事業なのであれば置いておくべきだと思いますし、後々補正上げればいいわみたいなやり方というのは、僕はちょっといかがかなと思いますので、ぜひその辺検討していただきたいなと思います。

○田中一郎委員長 世良部長。

○世良健康福祉部長 今、津田委員のほうからおっしゃっていただきました。市もたくさん単独の補助メニューを持っております。そういう考え方の中で、今、委員のおっしゃった考え方も一つかと思えますし、やはり当初予算編成の方針としまして、メニューのある単独事業全てに予算をつけると非常に当初予算が大きなボリュームになりますし、それまでの補助事業の執行の様子を見ながら査定もされております。そういう中で今回こういう金額になっておりますが、これは担当部のほうとしましては、事業のあるものはその都度予算要求はしておりますが、全体的な、市全体の考え方として、そういう予算の置き方という一つの方針もありますので、これは市全体の考え方として今後また議論いただけたらと思います。

○田中一郎委員長 飯田委員。

○飯田委員 昨年、予算編成のときに出されておった通達の中には、なるべく補正のないように当初予算で上げてくるようにという形のもので出たおったと思うんですけども、30万円とかいう、言い方は悪いですけども、少ない金額だからというわけじゃないんですけども、やっぱり上げていく以上、こういう部分の補助金、5件

やったら5件、1,500万円というものはある程度押さえていくということも必要じゃないかなと。

だから、当初予算が少ないんで、次々補正して行って、どんどんふえていくという、何かだましみたいなことになるんで、最終的にはいろんな補助補正とか、いろんなしていったら、だんだん金額が上がっていくという形になるということになる状況がそうじゃないかなと思うんで、できるだけ本当に必要なものか、必要でないかという見きわめも必要だと思うんで、そんなこと言いよったら、これ何ぼでも出てきたら、どんどんしていかなあかん。あそこがして、ここができないとかいうことも言えなくなってくると思うんで、やっぱりその辺は、今回は5件でいっぱいになったから、もう次年度にという形をしていく必要があると思います。でないと、自治会さんのほうやって、そういう予算組みのときに、それを踏まえてやっていかなんだら、本当はあかんと思うんですね。自治会も。自治会も行き当たりばったりでそういうことはできんと思うんで、やっぱりその辺のところも、補助のほうもきちっとしていくべきじゃないかと思うんですけど、いかがですか。

○田中一郎委員長 世良部長。

○世良健康福祉部長 この事業につきましては、過去の実績からしましても、そんな毎年、今言われましたように、150万ですね。5件も出るような事業でもございませんし、ただ、自治会さんの名誉のために申し上げますと、自治会の中では内部で十分協議をされておったようにお伺いしておりますが、市に言っていたいただいたタイミングが予算編成の事務を過ぎてからだったということでございます。

ほかの事業からも幾ら、ほかの自治会からも幾らでも出てくるという性格のものではございません。担当部としましては予算要求はしておりましたし、予算編成方針も十分理解をした上で当初要求はしておりましたが、過去の実績等を鑑みて、査定の段階で、途中でもし出されたら補正で対応しようという、そういうことで今回の当初予算となっておりましたことを御理解いただけたらと思います。

○田中一郎委員長 ほかにありませんか。

(「なし」の声あり)

○田中一郎委員長 ないようでしたら、分科会、第59号議案の調査はこれにて終了いたします。

午後 1時28分休憩

午後 2時40分再開

○田中一郎委員長 失礼します。

このたび議会の構成選挙で、新しい常任委員会のメンバーがこの8名で、調査、審査をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

そうしたら、議題に上がる前に、部長のほうから一言お願いします。

○前田教育部長 それでは、委員長の指名によりまして、教育委員会、このメンバーでまた今年もよろしくをお願いしたいと思います。それで、いろいろ学校教育、また就学前の教育、それから社会教育といういろんな分野で、人数も学校の先生も入れるとかなりの大きな組織となっておりますけども、広範囲なこと、極力教育の充実というのは求められているところでもありますので、一生懸命頑張っていきたいと思っておりますので、今年度もよろしくをお願いしたいと思います。

以上でございます。

○田中一郎委員長 ありがとうございます。

続きまして、59号議案の分科会を始めたいと思います。

まず、59号議案について、当局より説明をお願いいたします。

西林次長。

○西林教育部次長兼施設整備課長 前回の委員会でお配りしました議案資料、5月29日と書いている資料、お手元でございますでしょうか。これの1ページをごらんください。

59号議案、一般会計補正予算（第1号）の教育部に係る部分の説明をさせていただきます。

まず、歳入ですけども、予算書の7ページでございます。教育費寄附金、教育振興費寄附金としまして、教育振興を目的とした指定寄附を2,800万円受けることとなっております。

歳出につきましては、予算書の10ページ、教育振興費の備品購入費でございます。教育用タブレットPC等購入費で、西兵庫信用金庫からの寄附金により教育用ICT機器の購入をするために2,800万円を計上するものでございます。

これにつきましては、先日、5月13日の神戸新聞にも報道がありましたように、西兵庫信用金庫さんから3,000万円の寄附をいただきまして、そのうち2,800万円を教育用のICT機器の購入に充てるものでございます。これにつきましては、全ての子どもたちにわかりやすく、興味や関心を高めやすい授業が構築できるようにすることを目的としまして、今後四、五年をめどに市内全小中学校のコンピューター教室のパソコンをタブレット型コンピューターに更新していきたいと考えていたと

ころでございます。そこへ今回の寄附をいただくことによりまして、二、三校において先行的にこのタブレット型コンピューターを整備することが可能となります。これらの学校をモデル校としまして効果と課題を多角的に検証することで、それ以降の導入促進や指導方法の改善につなげていきたいと考えております。

以上です。

○田中一郎委員長 59号議案について、委員の方、質疑ありましたらお願いします。
津田委員。

○津田委員 このタブレット型P C、これ実際今回、当初予定が何台追加されたんでしょうか。

○西林教育部次長兼施設整備課長 台数につきましても、これからこういったものを買うかということも含めて、学校のI C Tの担当の先生方に集まっていただいて、担当者会議を開きまして、その中でこういったものをどういった学校に入れて、今後どういうふうに進めていくかということを協議しながら進めていきたいと考えておりますので、まだ具体的なことは決まっていないという状況でございます。

○田中一郎委員長 津田委員。

○津田委員 私も子どもが小学校にいますので、何度か授業を見に行ったりもしたんですけどね。当然パソコン、タブレットの活用、先生によっていろいろあると思うんですけども、授業を見ている感じとしては、モニターがちょっと小さ過ぎるんじゃないかとかいう部分を感じたんですよ。子どもたち本当に、先生とかに聞けば、やっぱり進んでいるところだと、例えば電子黒板みたいな、導入してやっているところとかもありますので、確かにそうやねという話聞いてたら、本当にタブレットを使って、本当に授業としてやっていく中で、あのモニターで本当に子どもたちが全部それ集中して見れてるのかなと。多分遠くの子だと見にくいんじゃないかなと思う部分も感じたりする部分もあったんで、本当にせつかくこういうお金ですから、やっぱり現場の声、どういう授業をやっていけばもっと子どもたちが理解力を深めれるのか、その辺もって、ただ、今回タブレット型P C、まだ具体的に何台買うかと決まっていなくてあれば、本当に先行的なことで見るとあれば、本当に電子黒板みたいな、ばんと入れてしまっ、そういうモデルみたいなのもぜひ検討していただけたらなと思うんですけど。

○田中一郎委員長 西林次長。

○西林教育部次長兼施設整備課長 今回入れようとしております概略を申し上げますと、実はコンピューター教室のパソコンが非常に古いもので、平成21年度に入って

いるんですね。その更新をしなければいけないことはこれまで課題であったんです。それを今回タブレット型のコンピューターに置きかえて、コンピューター教室ではパソコンとして使って、教室に持って帰ればタブレットとして使えるようなものがないんじゃないかというふうに事務局では考えているところで、そういった方向で今後学校とも調整をしていきたいなというふうに考えているところでございます。

○田中一郎委員長 津田委員。

○津田委員 ぜひ現場の若い先生方、今後多分ずっと残られるような先生方の意見、実際今、タブレットを使って授業されている先生、やっぱりその年齢層によってすごい偏りがあると思うんですね。やっぱり一番よく使われている先生方の意見というのはいま取り入れてもらって、進めていただきたいなと思いますので、よろしくをお願いします。

○田中一郎委員長 神吉委員。

○神吉委員 昨年度でしたか、大きなモニターと先生が持たれるタブレットを導入していただいていると思いますけど、それとは全く違うところで使うものになるんですか。互換性が。

○田中一郎委員長 西林次長。

○西林教育部次長兼施設整備課長 これから導入したいと考えておりますのは子どもが使うタブレットでありまして、先生が指導で使うものとは全く別物で、形はもろんタブレットなんで同じなんですけども、子どもが使うことを主眼に置いたものを入れようとしているということでございます。ですので、1クラス単位のを各学校に入れていきたいなというふうに考えております。

○田中一郎委員長 神吉委員。

○神吉委員 ちょっと想像するに、先生が先でされていることがこのタブレットで見えるとかというものではなくて、自身でパソコンとして使うもの、タブレットとして使うものですか。

○田中一郎委員長 西林次長。

○西林教育部次長兼施設整備課長 当然、先生が使っているタブレットと子どもが使っているタブレットを連携して、例えば子どもが書きたいいろんなデータを先生のタブレットに打ち出して、それをモニターに映し出すとか、そういったこともできるようになるだろうというふうには考えております。

○田中一郎委員長 59号議案についてありませんか。

(「なし」の声あり)

○田中一郎委員長 ないようでしたら、59号議案の関係分の分科会を終わります。

午後 2時48分休憩

午後 3時43分再開

○田中一郎委員長 それでは、ただいまより採決ということに入りたいと思います。

まず最初に、文教民生分科会に付託されました第59号議案、令和元年度宍粟市一般会計補正予算の関係部分について質疑、討論ありましたらお願いします。ありませんか。

(「なし」の声あり)

○田中一郎委員長 それでは、採決に入らせていただきます。

第59号議案、補正予算の関係分について、賛成の方の挙手をお願いします。

(挙手全員)

○田中一郎委員長 ありがとうございます。全会一致で賛成、可決いたしました。

どうもありがとうございました。

(午後 3時44分 閉会)

宍粟市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

宍粟市議会予算決算常任委員会文教民生分科会 委員長 田 中 一 郎